

〇〇様 エチュードOp.35-17 (ソル)

ソルのエチュードはどれも本当に勉強になります・・・！日本でも何回も弾きましたし、ドイツに来てからもやり直して、新しい発見がありました。私からは2点述べさせていただきたいと思います。

①曲の出だしの自然な”ため”

出だしを少しだけためる（ルバートする）のはとてもいいアイデアだと思います！しかし、今の演奏だと少しためすぎだと思います。

曲の出だしはとっても大事で、**最初の2音でメロディーを聴き手に分からせないといけないんですよ**。ここでリズムを崩しすぎると、聴き手は「あれ？どういうリズムのメロディーなの？」と思い、しばらく聴き進めるうちにやっと理解する...というようになってしまいます。これでは説得力のある演奏とは言えないと思います。



聴き手「どこが1拍目??」

聴き手「なるほど、こういうリズムなのか！」

そこで、弾き始める前に**8分音符でカウント**してから弾いてみましょう。（苦手ならメトロノームを使う）



そしたら、**少しずつためる量を増減**させて、ちょうどよい塩梅を探しましょう。自然な出だしになりましたか？どんなにためたとしても「タタタタ」を忘れずに、**テンポを見失わない**ようにしましょう。どのフレーズの始まりにおいても同様です（例えば8～9小節目）。

テンポの揺らし方に関しては**クラシックギター以外の音楽を参考**にして、注意深く聴いてみてください。

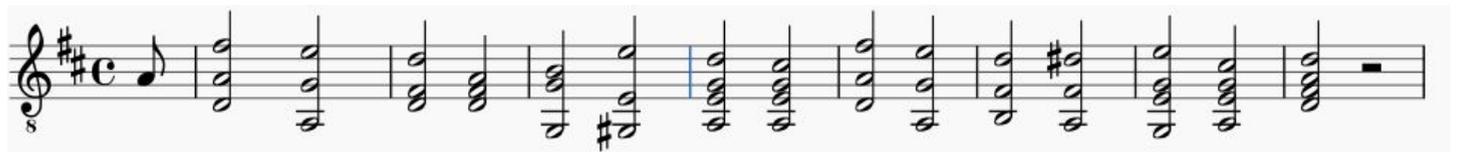
例：シューマン Robert Schumann のアラベスク Arabeske Op.18

②和声感を鍛える

伴奏とメロディーのバランスは良いと思います。強いて言うならもう少し**伴奏に強弱を持たせる**ことでよりエレガントでスタイリッシュな演奏になるかと思います。

そのためには和声の流れを意識して強弱をつけることが大事だと思います。きっとご自身でも勉強されているかと思いますが、大事なのは**和音の接続関係（緊張⇔緩和）**を感じて、**演奏に反映させる**ことです。

音を鳴らしてよく聴いてみましょう。以下は冒頭8小節を和音にして書き直したものです。



どういう強弱で弾けば美しいか、試してみてください。

以上となります。頑張ってください！！

余談

ちなみに冒頭1音目のラは、19世紀に出版されたジムロック版Simrock Editionでは **♪ではなく♪**になっています。どちらでもアリだと思います。